

令和6年度 社会 授業改善推進プラン

大田区学習効果測定 結果の分析

- 4年生：校内平均正答率が、目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎・活用ともに、目標値から9ポイント前後下回っている。領域別正答率も全ての項目で目標値を下回っている。内容別正答率についても、8項目中7項目で目標値を下回った。特に「安全な暮らし―事故や事件」については、目標値を14.4ポイント下回っており、警察の仕事の理解に課題が見られる。全体としては、地図や資料の読み取りや地図記号の理解に課題が見られる。
- 5年生：校内平均正答率が、目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎については、目標値を8ポイント下回っている。領域別正答率では、「特色ある地域の様子」で目標値を上回ったものの、「生活環境を支える活動」「自然災害から暮らしを守る活動」「伝統や文化、先人の働き」では目標値を10ポイント前後下回っている。内容別正答率では、「暮らしをささえる水」で、目標値を14.2ポイント下回る結果となった。地図はある程度読み取ることができているものの、その他の資料の読み取りや、知識を問われる問題に課題が見られる。
- 6年生：校内平均正答率が、目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎については10.5ポイント、活用についても9ポイント目標値を下回っている。領域別正答率では、全ての項目で目標値を下回り、特に「工業生産」「国土の自然環境と国民生活」で12ポイント程度、「産業と情報との関わり」で16.3ポイント目標値を下回った。内容別正答率でも、「情報を生かした産業」の目標値の下回り方が際立っている。資料やグラフの読み取りに課題が見られる。

【観点別正答率の分析】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各学年とも目標値を下回る結果となった。 4年生は、「買い物調べ」「安全な暮らし」についての問題、5年生は「暮らしをささえる水」の問題、6年生は「情報を生かした産業」についての問題の正答率が低く、資料やグラフの読み取りや内容の正しい理解に課題が見られる。	各学年とも目標値を下回る結果となった。 4年生、「安全な暮らし」「くらしの移り変わり」の問題、5年生は「自然災害から暮らしを守る」「先人の動き」、6年生は「日本の工業生産」の問題で、資料を基に考えたり、表現したりすることに課題が見られた。	各学年とも目標値を下回る結果となった。資料を基に判断したり表現したりすることに課題が見られた。特に記述問題において、正答率が低い傾向が見られる。

課題<今回の調査結果から>

- 知識・技能においては、単元によって理解の程度に差が出ている。学年によって傾向が異なるため一概には言えないが、地図記号や都道府県、施設や各機関の役割など、各単元で知識として定着させるべき事項は、学習の中で触れる機会を多くしていく必要がある。また、資料を読み取る技能についても課題が見られた。地図やグラフ、年表などの資料について、地域差、量の変化、時間の経過などに着目しながら正確に読み取る活動を授業に多く取り入れていく必要がある。
- 思考・判断・表現においては、各学年において資料を基に正答を判断したり、その社会的現象の特徴を表現したりすることに課題が見られた。資料の読み取りなどの技能は、前述のように授業中などに意図的に機会を設けて身に付けさせていく必要がある。それに加えて、読み取ったことをもとに表現する学習活動も行うことが必要である。授業の中で議論をしたり、資料を用いた新聞作りやプレゼン資料作りを行ったりする必要がある。
- 主体的に学習に取り組む態度については、学習したことを自分事として捉え、自らの意見をもち、表現することが重要になる。各時間や単元の終末において、自分の経験と照らし合わせながら、考えや感想を自分の言葉でまとめる活動を取り入れる必要がある。また、社会科の授業中だけでなく、身近な事象やニュースなどに日常生活の中でも触れ、感想や意見を交流するような場を設定する等の工夫をすることで、社会の一員としての意識や考え方のコツを掴めるのではないかと考えられる。